

2026年3月23日

成城大学  
キャリアセンター長  
中田 真佐男 殿

2025年度  
成城大学キャリアセンター  
外部アドバイザー・評価結果報告書

成城大学キャリアセンター  
外部アドバイザー・評価委員会  
委員長 平野 光 俊  
委員 児美川 孝一郎  
委員 山口 路子

## 1. 成城大学キャリアセンター外部アドバイザー・評価委員会

成城大学キャリアセンター外部アドバイザー・評価委員会（以下、本委員会という）は、「成城大学キャリアセンター外部アドバイザー・評価委員会設置要綱」第1条に基づき、成城大学キャリアセンターが所管するキャリアデザイン科目並びにキャリア教育及びキャリア形成支援に関わる各種プログラムの適切な運営や事業の進捗状況について評価を行うとともに、必要に応じて助言及び指導等を行うことを目的に設置され、学外の有識者を中心として組織された機関である。

## 2. 2025年度 成城大学キャリアセンター外部アドバイザー・評価委員会委員

※任期：2025年4月1日～2028年3月31日

委員長 平野光俊 大手前大学 学長

委員 児美川孝一郎 法政大学キャリアデザイン学部 教授

委員 山口路子 小田急電鉄株式会社 総務部長

## 3. 委員会開催日程等

<第1回>

日時：2025年12月8日（月）18:00～19:15

場所：Zoomによるオンライン会議

議題：1. 委員会の目的・所掌事項の確認及び委員長の選任について  
2. 成城大学キャリアセンターについて  
3. 成城大学のキャリア教育について  
4. 成城大学のキャリア支援（就職活動支援を含む）について  
5. 評価方法・スケジュールについて  
6. その他

<第2回>

日時：2026年3月2日（月）18:00～19:00

場所：Zoomによるオンライン会議

議題：1. 成城大学キャリアセンターのキャリア教育及びキャリア支援体制に対する評価について  
2. その他

#### 4. 評価結果

本委員会は、「成城大学キャリアセンターのキャリア教育及びキャリア支援体制」を評価対象とし、公益財団法人大学基準協会が行う大学評価の基準（大学基準）を参考に、以下3点の「評価の視点」を設定した。

##### 【評価の視点】

①	大学のミッション・ビジョンを踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、キャリア教育を構成しているか。
②	学生支援に関する大学としての方針に基づき、キャリア支援体制を整備し、進路選択に関わる支援やガイダンスを実施しているか。
③	キャリア教育及びキャリア支援に係る各種事業の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

また、適切性及び妥当性を評価項目とし、「評価の視点」を総括して評価を実施した。

##### 【評価項目】

適切性（目的達成のために各事業の方向性や内容が合っているか）	有・無・どちらともいえない
妥当性（目的達成のために各事業が量的・質的に十分であるか）	有・無・どちらともいえない

評価は、各委員が作成した「外部アドバイザー・評価シート」（以下、評価シートという）に基づき、慎重かつ丁寧な審議を実施した結果、「評価の視点」の各要件を満たしていると判断し、適切性、妥当性ともに「有」とした。

なお、各委員の「評価シート」に記載されたコメント内容について、次頁以降に付記するので、参照されたい。

本評価結果が、今後の成城大学キャリアセンターによる各種事業の改善・向上の一助となるよう、更なる運営改善に向けた検討、取組みに役立てていただきたい。

## 【評価の視点①】に対する委員の意見

- ・キャリア教育の基本設計が、就職対策に矮小化することなくライフ・キャリア全体を視野に入れて構築されている。また、授業内容に社会正義、持続的ウェルビーイング、サステナビリティ人材といった学術的テーマが取り入れられ、リベラルアーツとしてキャリア教育が施されている。さらに、PBL やアクティブラーニング等の教育方法が取り入れられ、体験ー内省（リフレクション）を重視したキャリア教育になっている。
- ・キャリア教育とキャリア支援が相互補完的に学生のライフ・キャリアの自律的創造力を高めるよう体系的に設計されている（例えば、授業科目による自己分析を就職ガイダンスで職業理解と結び付けることで、自己理解を促進させていることなど）。
- ・貴学の理念・目標を踏まえ、社会的ニーズにもかなったキャリア教育が、適切かつ充実したかたちで展開されている。特に、就職支援を睨んだワーク・キャリアのみにフォーカスするのではなく、ライフ・キャリアや社会参加・貢献といった視点にも十分に視野が広がられている点は、貴学ならではの優れた取組みである。
- ・大学のミッション・ビジョンが掲げる「個性の暢達」「広い視野と高度な教養」「独創性と協働性を備え未来を切り拓く人材」に照らし、キャリアデザイン科目（Seijo Career Program）（以下、SCP という）は自己理解から社会理解、実践的経験、世界市民としての貢献までを段階的に扱い、就職対策にとどまらないライフ・キャリア形成を支えている。企業の立場から見ても、学びを言語化し、他者と協働しながら価値を創出できる素地を育む構成として望ましい。加えて、地域との接点として学生の声を聴取することは、地域の期待や将来世代の価値観を把握する機会になっていると思料する。
- ・SCP ではPBL やグループワークなどの教育方法を取っているため、履修者数に制限を設けざるを得ず、結果的に将来のキャリアへの関心が低い、あるいは就職活動が低調な学生は未履修のまま卒業することとなり、全体の底上げという点で課題がある。特に、アドバンス科目（2～4年生担当科目）の履修者数が少ない点が気がりである。この点については、開講科目数が多過ぎることが一因ではないかと思料する。
- ・貴学におけるキャリア教育及びキャリア支援は、全学的な取組みになっているのか（学部とどのように連携しているのか、教員がどのように関与しているのか）、また、どれだけの学生に普及させることを目標としているのかが判然としなかったため、現状をどのように評価しているのかが気がりである。
- ・SCP と各学部のディプロマポリシー（以下、DP という）、ひいては大学全体のDP との対応関係について、シラバスからは読み取れず、やや疑念が生じる部分が散見されるため、DP との関連付けについて学部別に検討の余地があると思料する。

### 【評価の視点②】に対する委員の意見

- ・「誰かを教えることによって自身の成長を促す」キャリアサポーター制度の取組みは、参加する学生の自己効力感や学生生活の意義を高めており、他に類を見ない貴学独自のユニークかつ優れた取組みである。また、キャリア支援に関わる様々な情報の閲覧、各種イベントへの参加登録・予約・申込みが「成城大学キャリアナビ」のキャリア支援システムによってデジタル化されており、学生の利便性を高めている。
- ・貴学の理念・目標を踏まえ、社会的ニーズにもかなったキャリア支援が、適切かつ充実したかたちで展開されている。特に、学生によるピアサポートが取り入れられている点は、貴学ならではの優れた取組みである。
- ・ガイダンス、講座、学内説明会、個別相談、インターン等が体系化され、低学年から活用できる支援体制は学生支援方針に沿って整備されている。資格・公務員等の多様な進路にも配慮があり、集団支援と個別支援の両輪で意思決定を後押ししている点は、学生の安心感と主体性の醸成につながっていると思料する。

### 【評価の視点③】に対する委員の意見

- ・「CAREER GUIDE 2025」など、学生及び社会に発信する情報コンテンツが充実している。また、「成城大学キャリアセンター公式 SNS」によってタイムリーに各種イベント・プログラムが社会に発信されている。
- ・授業科目の履修状況に応じて、マイクロレディンシャルとしてオープンバッジ（サーティフィケートベーシック、アドバンス）が発行されている。また、キャリアサポーターもその活動に応じてオープンバッジが発行されており、それぞれ励みの制度となっている。これらのオープンバッジを通して、貴学のキャリア教育・キャリア支援のレベルの高さを社会へ発信している。
- ・SCP の新科目開講やフィールドスタディ、キャリアセンターの各種支援・イベントなどの取組を公式ホームページ等で継続的に発信している点は、丁寧な対応である。情報が散在しがちな領域を、プログラムとして示している点も分かりやすい。今後、卒業生が出て情報が蓄積する段階では、学生の声や成果、進路形成のプロセス等に基づく具体的成果の発信が進むと、さらに良いと思料する。
- ・キャリア教育やキャリア支援に係る各種プログラムの「供給」という点では、すぐれた成果を挙げていると確信するが、それらを通じて学生にどのような力を身に付けさせ、どのように育てていきたいのか、という点についての点検・評価が重要な検討課題である。今後は、社会に向けた公表と説明責任において、プログラムの「供給」のみではなく、「成果」の発信を含めた内容が求められるのではないかと思料する。

以上